

佳作

小学校最後の運動会

兵庫県 丹波市立崇広小学校六年 足立 里佳

今年の運動会は、とても楽しかったというより、大変だったという感じでした。

私は、放送が担当でした。「がんばれ」とか「はい」などの言葉を自分で考えて、練習します。少しの期間で、もうちょっと時間がほしかったけど、本番がきました。放送をする席にすわると、ふるえました。足がガクガクして、だれが見ても、わかるぐらいきんちょうしていました。でも放送を始めると、ほぼふつうになりました。言うのもとても不安だったけど、なんとかがんばれました。きんちょうしていたせいか、あまりよく覚えていないけど、終わった時には、とてもふるえて、石になったようでした。きこえていたのか、とても不安でした。ごはんの時に、家族にきいてみると、きこえていたよと言ってもらえて、そこで初めて安心できました。力がスーとぬけていくようでした。これまでは、運動会のラストをかざるのは五・六年生の組体でした。私は、ほぼ上でした。ずっと、くずれたらどうしよう、めいわくかけたらどうしよう、と思っていました。そのなかでのきんちょうは、今までとはちがうきんちょうでした。みんな同じ気持ちだったと思います。最後は、みんなの気持ちが一つになり、そろったと心で思いました。だれもケガすることなく、大きな失敗もなく、100点といってもいいくらい、よかったと思います。終わったあとは、今までとはちがう達成感で、とてもほっとしました。ニコッというよりニコーという感じでした。六年とは、こんな感じなんだと思いました。組体とは、体だ

けでやるのではなく、心も必要だということ強く実感しました。ここまでやってこれたのは、助け合える仲間、信頼するということがあったからだなと思います。きつと一人なら、と中でやめていたと思います。そして、改めてわかったのが、組体は一人ではなく、二人とか三人でやるということです。二人なら、気持ちなどをだんだんそろえ、相手を信じようと思う気持ちを育てていきます。一人なら、こんな気持ちは、なかったと思います。

今までは、負けてくやしい、勝つてうれしい、だったけど、今年は、みんなでこの気持ちをわかちあえる喜びに、心が満たされたなあと思いました。

きんちょうと不安で、ちぎれそうになりながらも、頑張った自分にこの気持ちという金メダルをあげたいと思います。

良い経験になったと思います。運動会の本当の意味を知ったと思います。